

【様式1】

児童数	1002	小学校数	23
生徒数	917	中学校数	12
計	1919	計	35

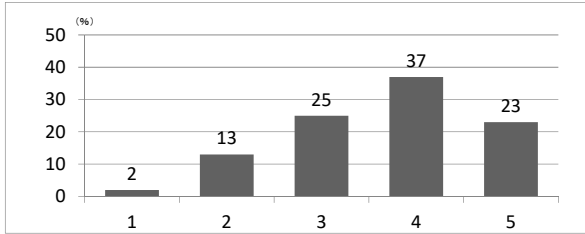
令和3年度全国学力・学習状況調査結果について

鹿屋市教育委員会

(正答率分布グラフ、課題、改善策)

【小学校】〔国語〕

標準偏差 3.0

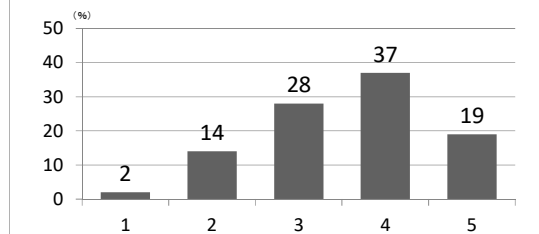


〈課題〉

・5段階は23%となっており、前回と比べて3P減少した。また、県平均と比べると、上位層の割合が少ない。
 ・県平均と比べて、記述式問題の無解答率は低いが、正答率が低い。
 ・目的に応じて話す内容が明確になるように構成を考えたり、文章全体の構成を捉えて内容の中心を把握したりすることに課題がある。

【中学校】〔国語〕

標準偏差 2.9

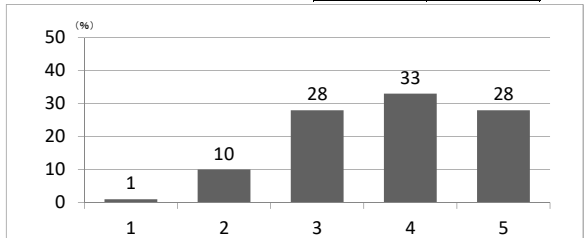


〈課題〉

・2段階は14%となっており、前回と比べて6P増加した。また、県平均と比べると、下位層の割合が多い。
 ・県平均と比べて、記述式問題の無解答率はほぼ同じであるが、正答率が低い。
 ・伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書くことに課題がある。

〔算数〕

標準偏差 3.4

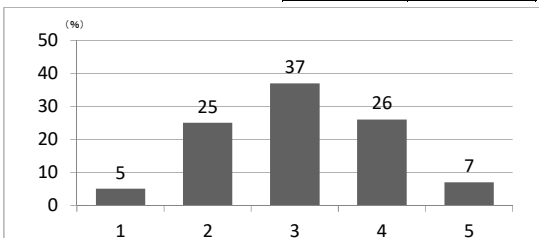


〈課題〉

・5段階は28%となっており、前回と比べて4P増加したが、県平均と比べると、上位層の割合が少ない。
 ・県平均と比べて、記述式問題の無解答率は低いが、正答率が低い。
 ・集団の特徴を捉えるために、必要な情報を選択することに課題がある。

〔数学〕

標準偏差 3.5



〈課題〉

・1段階は5%となっており、前回と比べて5P減少したが、県平均と比べると、下位層の割合が多い。
 ・県平均と比べて、記述式問題の無解答率はほぼ同じであるが、正答率が低い。
 ・事柄が成り立つ理由や事柄の特徴を数学的に説明することに課題がある。

【改善策】

- ① 昨年度まで、各学校では、年間を通したPDCAサイクルの推進を行い、授業改善や演習問題等の取組について充実を図ってきた。
- ② しかし、今回の調査結果では、小学校、中学校ともに、全国平均・県平均を下回った。前回と比べると、下位層は少なく、無解答率の割合も減少してきているが、県平均と比べると、依然として下位層が多く、上位層が少なかった。このことから、昨年度までの取組については、研究授業や相互授業参観を通して授業改善を図ったり、演習問題等に継続して取り組んだりして効果が見られた学校があったが、取組を徹底した学校とそうでない学校との間で、成果に差が現れてきているものと考えられる。
- ③ このため、今後は、学期毎にPDCAサイクルの進行管理、応用問題への取組や基礎・基本の反復学習の見届けなど、以下の事項に重点的に取り組んでいく。

(今後の具体的な取組)

- 継続して成果が出ていない学校について、大隅教育事務所と連携しながら、諸調査等の結果分析、授業改善に関する指導を行う。また、指導した内容の改善が図られたかどうかを確認するため継続的に学校訪問を行い、改善がなされるまで指導を徹底する。
- 下位層の基礎・基本の定着、中位層や上位層を伸ばす個に応じた学習活動を充実させるため、児童生徒一人一台端末を積極的に活用したり、「かごしま学力向上支援Webシステム」に掲載された問題に週1回以上取り組ませたりするよう指導を徹底する。その際、管理職による見届けを徹底するよう指導する。
- 重点取組事項について管理職研修会や授業力アップ研修会等で指導し、学校訪問の際に改善されているかどうか確認する。

〔小学校〕(国語科) 相手や目的を明確にした言語活動を通して、事実と感想、意見などの関係を押さえた読みや書きができるよう指導を行う。
 (算数科) 興味・関心や問題意識を大切に数学的活動を通して、目的に応じて適切な情報を選択し、問題を解決することができるよう指導を行う。

〔中学校〕(国語科) 目的や意図に応じて、効果的な表現を工夫したり、思いや考えの根拠を明確にしたりして、分かりやすく書く指導を行う。
 (数学科) 解決の過程や結果を振り返って、統合的・発展的に考察し、事柄の特徴を数学的に説明できるよう指導を行う。

児童数	103	小学校数	8
生徒数	91	中学校数	1
計	194	計	9

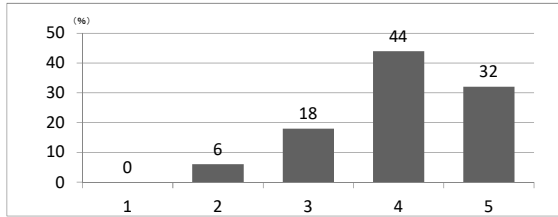
令和3年度全国学力・学習状況調査結果について

垂水市教育委員会

(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

【小学校】〔国語〕

標準偏差 2.6

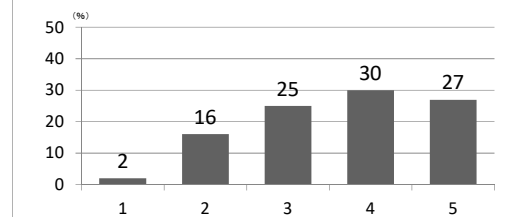


〈課題〉

- ・4, 5段階の割合は76%となっており, 前回と比べて, 14ポイント増加している。
- ・平均正答率は, 全国・県平均を上回っており, 「知識及び技能」の「(1)言葉の特徴や使い方に関する事項」が, 全国・県平均より10ポイント以上上回っている。
- ・目的に応じて, 必要な情報を見付けたり, 中心となる語や文を見付けて要約することに課題がある。

【中学校】〔国語〕

標準偏差 3.1

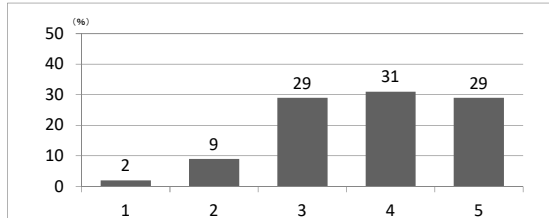


〈課題〉

- ・平均正答率は, 全国・県平均と同等である。
- ・「書くこと」, 「読むこと」等は全国・県平均とほぼ同等であるが, 「話すこと・聞くこと」は, 全国・県平均より約4ポイントほど下回っている。
- ・推敲する場面において, 語句や文の使い方, 段落相互の関係に注意して書くことに課題がある。

【算数】

標準偏差 3.5

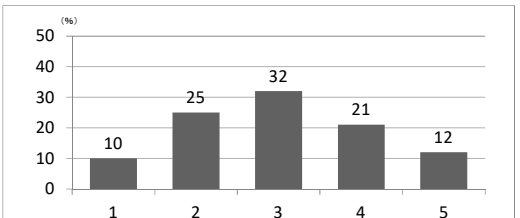


〈課題〉

- ・5段階の分布状況は, 全国・県の分布状況とほぼ同等である。
- ・平均正答率は, 全国・県平均を下回っているが, ほぼ同等である。
- ・図形の構成要素に着目して必要な情報を選んだり, 面積の求め方について筋道を立てて説明することに課題がある。

【数学】

標準偏差 4



〈課題〉

- ・平均正答率は, 県平均と比べ6ポイント低く, 1, 2の段階の割合が多い。
- ・数学的な結果を事象に即して解釈し, 事柄の特徴を数学的に説明することに課題がある。
- ・「数学的な見方・考え方」, 「数学的な技能」の育成に課題がある。

【改善策(例)】

学び合いの基盤を支える「学習規律」や一単位時間の基本的な授業モデル, 「わかる授業」の構想などについてパンフレットにまとめ, 各学校での学習環境整備や授業づくりで活用できるようにしている。特に, 1時間で完結する授業, 定着の時間の確保を重視してきた。また, 各学校で, 過去の学力調査問題や「かごしま学力向上Webシステム」の問題に計画的に取り組ませてきた。

今回の調査結果では, 小学校の国語科で, 言葉の特徴や使い方に関する事項の正答率が高かったが, 思考力, 判断力, 表現力等の読むことに課題が見られた。算数科では, 図形領域において, 基本図形の面積を求め方(知識・理解), 複数の図形を組み合わせた図形の構成要素を捉えて面積を求める方法の記述(思考・判断・表現)に課題が見られた。

中学校の国語科では, 書く能力, 読む能力に課題があり, 自分の考えを書いたり, 文章に表れているものの見方や考え方を捉えたりする力を育成する必要がある。数学科では, どの領域においても数学的な見方や考え方が課題であり, 授業で数学的に問題発見・解決する活動を充実させる必要がある。

今後は, 1人1台端末の効果的な活用や諸調査等の問題を授業改善に生かすなど, 以下の事項に取り組んでいく。

(今後の具体的な取組)

- ・1人1台端末を, 学習内容を定着させる場面だけでなく, 課題を捉える場面や他者との交流など, 自分の思考を深める場面で効果的に活用できるように, 授業改善に関する指導を行う。また, 研修会を定期的に開催し, 教員が1人1台端末の効果的な活用を学ぶ場を設ける。
- ・「かごしま学力向上支援Webシステム」に掲載された問題や諸調査等の問題に計画的に取り組ませる。その際, 出題方法や題材を授業に取り入れるなど, 授業改善の手段として活用するよう指導する。
- ・児童生徒が, どのようなことができるようになったのか, 何が課題なのかを自覚化したり, 書く力の育成を図ったりするために, 授業における振り返りを確実に設定させる。

【小学校】(国語科) 目的に応じ, 中心となる語や文を見付けたり, 思考に関わる語句などに注意して読んだりする指導の助言を行う。
(算数科) 図形の面積を求める際, 必要な情報を選び, 面積の求め方について筋道立てて説明する活動を徹底させる。

【中学校】(国語科) 書いた文章表現の効果や, 目的や意図に応じた表現の仕方, 文章を読んで考えたことなどを伝え合う言語活動を通して指導させる。
(数学科) 観察や操作などを通して, 数量や図形などの問題場面を捉え, 問題解決の過程を自ら振り返ったり, 伝え合ったりする活動を通して指導させる。

【様式1】

児童数	300	小学校数	20
生徒数	264	中学校数	3
計	564	計	23

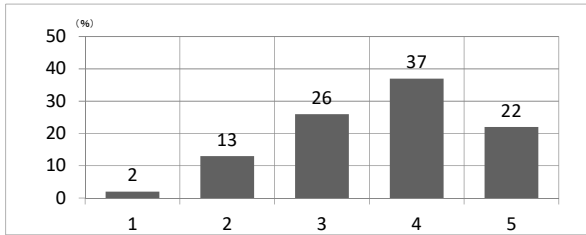
令和3年度全国学力・学習状況調査結果について

曾於市教育委員会

(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

【小学校】〔国語〕

標準偏差 2.8

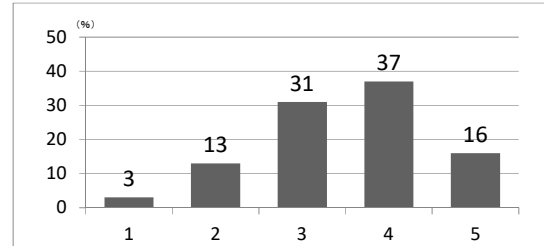


〈課題〉

・ 4, 5段階の割合を合わせると59%となり, 前回 (58%) とほぼ同等の割合であった。観点別にみると, 前回と比べ, 「知識・技能」の改善は図られているものの, 依然として「思考・判断・表現」に課題があり, 特に「読むこと」について活用する力が十分に定着しているとは言えない。
・ 文章全体の構成を捉え, 内容の中心となる事柄を読み取る力が十分に身に付いていない。

【中学校】〔国語〕

標準偏差 2.8

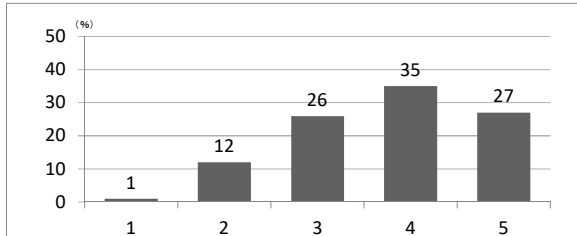


〈課題〉

・ 4, 5段階の割合を合わせると53%となり, 前回 (58%) よりも減少している。特に, 5段階の割合の減少が大きく, 上位層への引き上げが課題である。
・ 小学校と同様に「読むこと」に課題があり, 物語文では登場人物の心情や行動に注意しながら読み, 内容を正しく理解する等の力が十分に身に付いていない。

【算数】

標準偏差 3.3

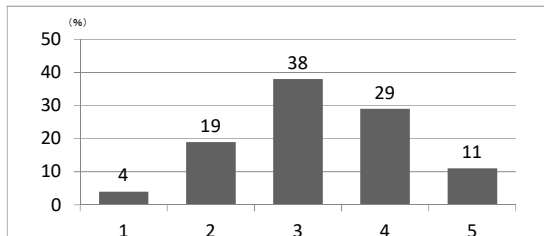


〈課題〉

・ 4, 5段階の割合を合わせると62%となり, 前回 (60%) とほぼ同等の割合であった。下位層の割合についても前回とほぼ変わっていない。
・ 図やグラフで示された複数のデータを比較に必要な情報を選択したり, そのことから分かる適切な考えを述べたりすることに課題がある。

【数学】

標準偏差 3.5



〈課題〉

・ 前回と比較すると, 1段階の割合の大幅な減少とともに, 5段階の割合の減少が生じている。下位層の引き上げは図られているが, 今後は, 上位層への引き上げが課題である。
・ 数学的な結果を事象に即して解釈したり, 事柄の特徴を数学的に説明したりする力が十分に身に付いていない。

【改善策】

- ①昨年度まで, 「曾於市学力向上プラン」に基づき, 指導主事等による校内研修における指導や管理職研修会での協議等を行ってきた。また, 「曾於市学力向上対策研究協議会」を各校の中堅職員(ミドルリーダー)で構成し, 先進地派遣や研究授業等を通して資質向上を図りながら, それら研究成果の還元を各学校へ行ってきた。さらに, 「かごしま学力向上支援Webシステム」等の演習問題の活用を各校へ促し, 計画的な取組を確認してきた。
- ②今回の調査結果では, 前回と比べ, 「知識・技能」の定着は図られてきているものの, 依然として「思考・判断・表現」に課題が残る結果となった。また, 正答率分布における下位層の引き上げが図れてきている一方で, 上位層の割合が減少しており, 下・中位層からの更なる引き上げを図っていく必要がある。
- ③今後は, 特に, 下・中位層の児童生徒の引き上げを図るべく, 個に応じた指導の充実や積極的な児童生徒同士の学び合いを取り入れ, 「主体的・対話的で深い学び」の視点に基づく授業改善を推し進めるとともに, 更なる演習問題等の効果的な活用を図るべく, 以下の事項に取り組んでいく。(今後の具体的な取組)
- 各学校に, 研究授業等で「学びの羅針盤」「大隅学力向上リーフレット」「曾於市学力向上ハンドブック」の活用を図らせるとともに, 各学校の学力に関する課題を共有し, 具体的な指導・助言及び必要なサポートを行っていく。特に, 授業改善に向けては, 市教委として次の3つのポイントで指導を行っていく。
 - 時間内に終わる授業(十分な教材研究, 明確な目標設定, 発問の精選 等)
 - 児童生徒の「わかった」「できた」「使えた」がある授業(「考える」「定着を図る」時間の確保, 個々の学習状況に応じた指導法 等)
 - アウトプットする場面のある授業(「書く」「話す」時間の確保 等)
 - 全小中学校への学校訪問を通して, 諸調査の結果分析等を踏まえた授業改善や学力向上に関する取組の状況を確認し, 適切な指導・助言に努める。特に, 成果が出にくい学校へは, 指導主事による学校訪問を重点的に行い, 授業改善に関する指導を行う。
 - 児童生徒個々の学習状況等に応じて学力の向上を図るべく, 1人1台端末の積極的な活用を図る。また, 「かごしま学力向上支援Webシステム」の問題等に計画的かつ個々の学習状況等に応じて取り組ませるようにする。
 - 以下の事項を管理職研修会等で指導し, 学校訪問の際に改善されているかどうか確認する。
- 【小学校】(国語科)説明文等の読み取りについて, 各学年における指導事項(段落, 要点, 要旨等)の確実な定着を図るよう指導する。
(算数科)探究型学習や学び合いを取り入れた授業改善を図らせ, かつ終末の時間の定着を図る問題や振り返りを徹底させる。
- 【中学校】(国語科)対話活動を通して話題や目的に沿って自分の考えをもちたり話したりする力が高められるような授業改善を図らせる。
(数学科)問題解決の構想を立てて, 評価・改善をすることを通して数学を利用することのよさを実感できるような授業改善を図らせる。

【様式1】

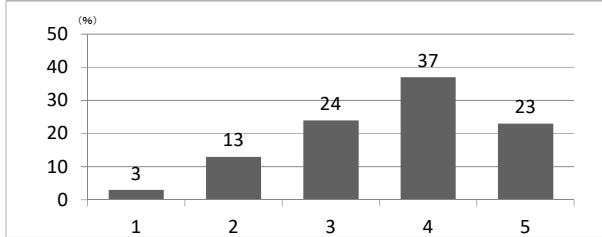
児童数	269	小学校数	16
生徒数	238	中学校数	5
計	507	計	21

令和3年度全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

志布志市教育委員会

【小学校】〔国語〕

標準偏差 3.1

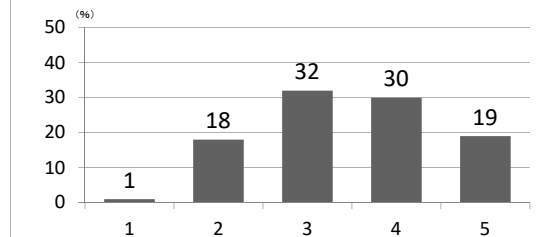


〈課題〉

・上位層が県平均と比べて少なく、前回の調査結果と比べ上位層、下位層が少なくなり、3段階の児童が増えている。また、県と比べ知識を問う問題に課題があった。(漢字を正しく使う、修飾と被修飾の関係)
・目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考えたり、何のために資料を用いるのか考えたりすることに課題がある。

【中学校】〔国語〕

標準偏差 3.0

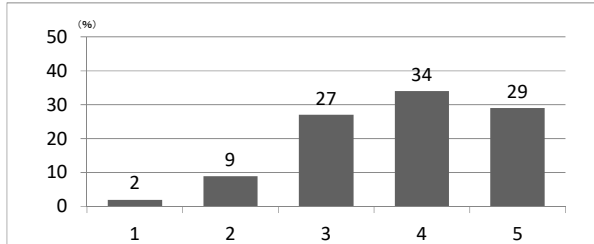


〈課題〉

・前回と比べて2段階の生徒が増えている。また、県平均と比べても下位層が多い。2、3段階をどのように伸ばしていくかが課題である。
・記述式の問いについては無解答率が高い。段落相互の関係に注意して書くことや文章に表れていることを理解し、自分の考えをもてるよう丁寧に指導していく必要がある。

【算数】

標準偏差 3.3

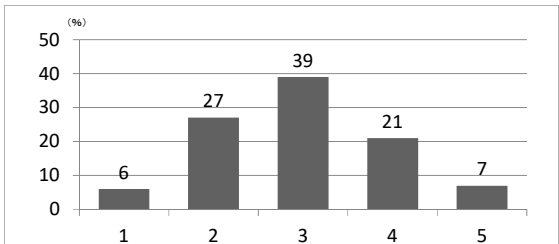


〈課題〉

・前回の調査結果より2段階の児童が少なくなっており、下位層の底上げが図られてきた。
・単体量当たりの大きさの理解に課題がある。また、問題場面を解釈し、必要な数量やその関係を捉え、数学的に表現・処理することに課題がある。

【数学】

標準偏差 3.6



〈課題〉

・前回と比べ1段階が少なくなり、3段階が増えているが、県平均より4、5の段階の割合が少なく、上位層をどのように伸ばしていくかが課題である。
・県平均に比べ、記述式の問いに対して無解答率が多くなっている。数学的な知識と結び付けて解決方法等を説明する力に課題がある。

【改善策】

- ① 昨年度まで、管理職の意識改革、志布志の授業モデルに沿った授業改善、演習問題等への取組、家庭との連携充実などの取組を行ってきた。
- ② 今回の調査結果では、前回と比べ、小学校、中学校ともに全国正答率との差が縮まってきた。小学校においては、記述式での正答率が上がっており、思考・判断・表現力等が伸びてきた。質問紙より家庭学習の取組もよくなっている。しかし、依然として中学校に大きな課題があり、国語、数学ともに上位層が少なくなっている。全国との差は縮まりつつあり、このことは授業改善が図られてきた結果だと考えるが、思考力・判断力・表現力等の向上を目指した演習問題等の取組は不十分だったと考える。また、家庭学習時間が増えてきているが、県・全国と比べ少ないことから、家庭との連携の充実も必要である。
- ③ このため、今後は、以下の事項に重点的に取り組んでいく。

(今後の具体的な取組)

- 継続して成果が出てない学校について、関係機関の助言をもらいつつ、諸調査等の結果分析、授業改善に関する指導を行う。また、きちんと指導した内容の改善が図られたかどうかを確認するため継続的に学校訪問を行い、改善がなされるまで指導を徹底する。
 - 日々の授業の中に、まとめの時間をしっかりと確保し、振り返りと見届けを位置付けながら学習内容の定着を図るよう指導していく。(完結する授業の徹底)また、大隅教育事務所から配信される『『わかった』『できた』を見届けろ！参考資料』の活用徹底及び「よか問」や「かごしま学力向上支援Webシステム」に掲載された問題に、週1回以上取り組ませるよう指導する。
 - 家庭との連携の在り方(家庭時間確保、スクリーンタイム減少)についても指導する。(特に中学校)
 - また、以下の事項を管理職研修会等で指導し、学校訪問の際に改善されているかどうか確認する。
- 〔小学校〕(国語科) 目的に応じ、話の内容が明確になるように構成や用いる資料を考えさせる指導を行う。
(算数科) 問題場面を解釈し、解決に必要な情報を整理、関連付けながら、筋道を立てて考えていく活動を徹底させる。
- 〔中学校〕(国語科) 目的に応じた読みを意識させ、自分の考えの根拠となる具体的な表現を明確にしなが考えを深めていく指導を行う。
(数学科) 既習の知識・技能と数学的事象を結び付けて考え、数学的な表現を用いて自分の考えを説明する活動を徹底させる。

【様式1】

児童数	88	小学校数	6
生徒数	81	中学校数	1
計	169	計	7

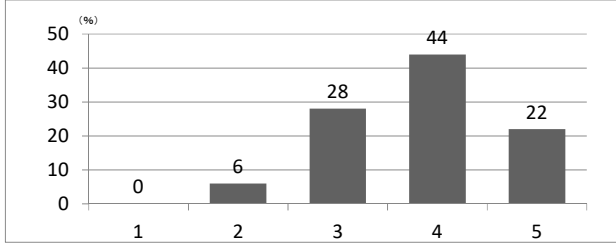
令和3年度全国学力・学習状況調査結果について

大崎町教育委員会

(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

【小学校】〔国語〕

標準偏差 2.7

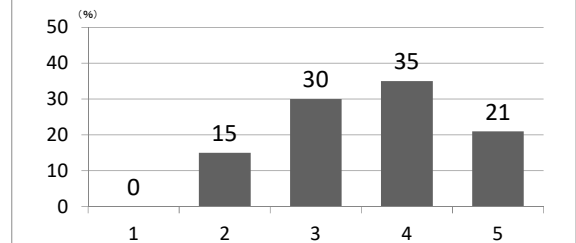


〈課題〉

- ・5段階の児童が(H31)33%→(R3)22%と減少した。また、1、2段階児童が(H31)19%→(R3)6%と減少した。
- ・下位層への手立てが充実してきているが、上位層への手立てに課題がある。
- ・「読むこと」で中心となる事柄、語や文を見つけることに課題がある。

【中学校】〔国語〕

標準偏差 2.9

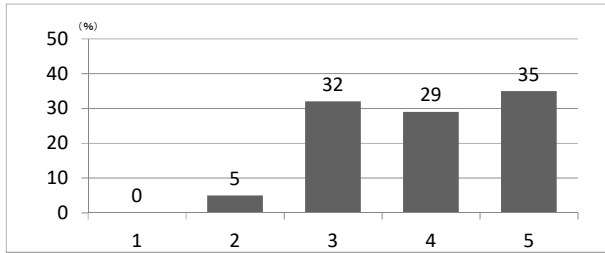


〈課題〉

- ・書く能力については、全国や県の平均より劣り、前回と比較しても更に差が開いている。書くことに関する思考力、判断力、表現力等の育成が十分とは言えない。
- ・書かれている内容を理解することに関する正答率が低いので、問題場面を捉える力に課題がある。

【算数】

標準偏差 3.1

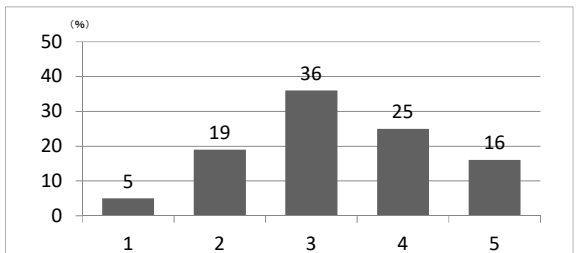


〈課題〉

- ・データの特徴を読み取る問題の正答率が低いことから、データの意味を捉えたり、必要なデータを判断したりすることに課題がある。
- ・問題場面から問題を解決するために、対象の関係性を見出すことに課題がある。

【数学】

標準偏差 3.9



〈課題〉

- ・前回と同様に文字を含めた四則計算において、全国や県の平均より劣っているため、意味理解を伴った計算に課題がある。
- ・条件や対象など視点を明確にして解く問題の正答率が、全国や県の平均より低い傾向が見られる。

【改善策】

- ①これまで、学力向上プロジェクトによる演習問題内容の重点化や各学校へ演習問題を行う時間や方法の工夫について指導してきた。
- ②これにより、一定の成果が見られた。しかし、汎用的に知識及び技能を活用する問題において、全国や県の平均を下回る問題が多く、問題場面を捉え、適切に解決することが課題として考えられる。
- ③このため、今後は、演習問題への取組を継続しつつ、授業において「学習内容(何を学ぶのか)」を明確にし、「見方・考え方」を意図的に働かせる工夫(授業改善)を進めていきたい。

(今後の具体的な取組)

- 管理職研修会等の町教委主催の研修会において、学習内容を明確にし、「見方・考え方」を働かせる授業への転換を図る指導を行っていく。また、確認のため学校訪問や校内研修において、指導案や研究授業を通して具体的な授業場面で説明や指導をしていく。
- 問題の場面や意味を視覚的に理解を深めたり、演習問題の充実を図ったりするICT活用について、ICT活用促進委員会を中心に事例集を作成・共有する。
- 管理職研修会や小中連携研究会等で以下の事項を指導し、学校訪問や学力向上プロジェクトの際に取組状況の確認や改善に向けた指導を行う。
 - (小学校)(国語科)中心となる事柄や文などを捉えさせる指導の工夫について
(算数科)何に注目してどのように考えればよいのかを明確にした授業の在り方について
 - (中学校)(国語科)目的に応じて文を構成させる指導の工夫について
(数学科)計算の意味理解を伴った、技能の向上について

【様式1】

児童数	52	小学校数	2
生徒数	57	中学校数	1
計	109	計	3

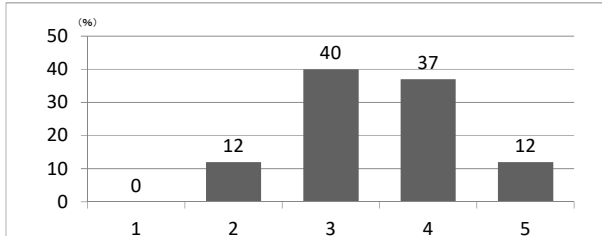
令和3年度全国学力・学習状況調査結果について

東串良町教育委員会

(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

【小学校】〔国語〕

標準偏差 2.6

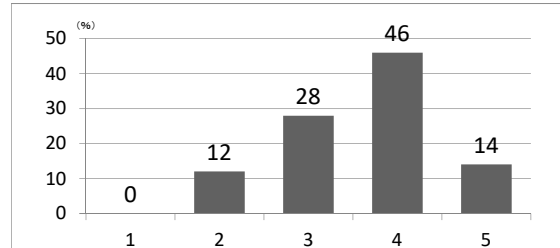


〈課題〉

・前々回は全国▲5.8Pの差で、今回は全国▲4.7Pであり、顕著な改善は見られなかった。3段階の児童が4、5段階に移る右寄りの正規分布を目指したい。
・資料から必要な情報を取り出し、条件に合わせて書くことに課題がある。

【中学校】〔国語〕

標準偏差 2.6

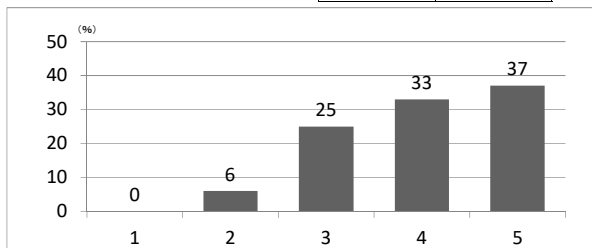


〈課題〉

・前々回は全国▲16.8Pの差があったが、今回は全国▲2.6Pまで改善した。さらに右寄りの正規分布を目指したい。
・「あなたの考えを書きなさい」という解釈の問題について無解答率が高い。「書くこと」を習熟させる指導が必要である。

【算数】

標準偏差 2.9

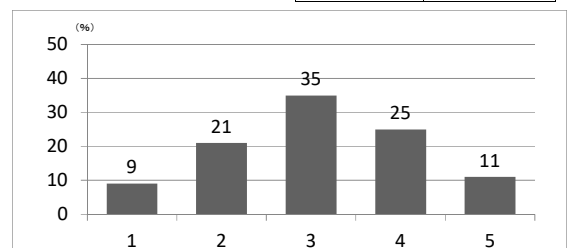


〈課題〉

・5段階の児童が一番多い。前々回は全国▲6.6Pの差があったが、今回は全国+2.8Pまで改善した。
・グラフから必要な情報を取り出し、問いに正対して答えることや、解き方の例示と同じように解くことに課題がある。

【数学】

標準偏差 3.9



〈課題〉

・1、2段階の生徒が多い。前々回は全国▲14.8Pの差があったが、今回は全国▲3.2P(地区±0P)まで改善した。
・基礎的基本的な問題ができていないのが大きな課題である。

【改善策】

- ①昨年度まで、各種研修会やメール・電話による演習問題等への取組喚起、見届けなどを行ってきた。(D:実施してきたこと)
- ②これにより、今回の調査結果では、前回と比べ正答率が改善した教科があったものの、依然として、小国、中国・数の通過率は全国を下回り、課題がある。このことから、昨年度までの取組については一定の効果があったと考えられるが、例えば、中数「知識」に関する問題の小問通過率で全国▲5～20Pの差があることや、記述問題の無解答率が高いなど、基礎学力の定着、書く力の育成といった面では取組が不十分だったと考えられる。(C:実施してきた内容の検証)
- ③このため、今後は、考えの記述と併せて、その基盤となる知識・技能の確実な習得などに重点的に取り組んでいく。(P:今後の方針)
- (今後の具体的な取組)
- 学校ごとのS-P表を作成し、学校にフィードバックする。
 - S-P表から「通過率の低い問題」「個別に配慮が必要な児童」「全国との差が大きい問題」の情報に焦点を当て、「今、何ができるか」を提示する。
 - S-P表から「課題となっている問題の指導学年」に焦点を当て、「全学調」「鹿学定」の取組は高学年だけでないということを再確認し、各学校での学力向上サイクルの推進(学年会・職員研修等)に生かしてもらう。
 - 国語であっても算数・数学であっても、長い問題文をすらすら音読できなければ、解く以前の問題である。例えば「1分間に○文字」といった数値目標を町内共通で設定するなど、数値に表せる学力を確実に見届けるような取組を推進していく。
 - 10月中旬から、鹿学定に向けた集中的な取組を推進する。具体的には、事務所指導課から示された「よか問」をただ学校に配布するだけでなく、担任レベルでの使い方(ユースウェア)の例示まで併せて行うようにする。
 - 以下のキーワードを示し、各学校での周知(指導)を依頼し、見届けていく。
- [小学校] (国語科)「情報の取り出し」 (算数科)「例と同じように解く」
[中学校] (国語科)「not無解答(まずは書く・とにかく書く)」 (数学科)「知識に関する問題」

【様式1】

児童数	63	小学校数	6
生徒数	48	中学校数	2
計	111	計	8

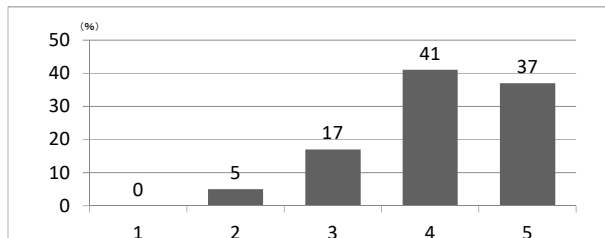
令和3年度全国学力・学習状況調査結果について

錦江町教育委員会

(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

【小学校】〔国語〕

標準偏差 2.4

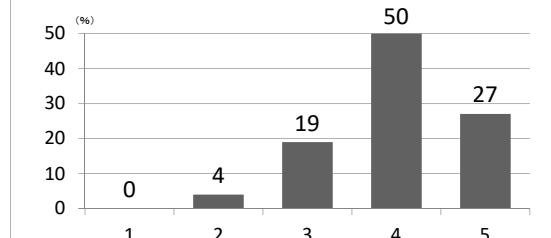


〈課題〉

- ・目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付けることに課題がある。
- ・目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することに課題がある。
- ・文の中の修飾語と被修飾語との関係を捉えることに課題がある。

【中学校】〔国語〕

標準偏差 2.3

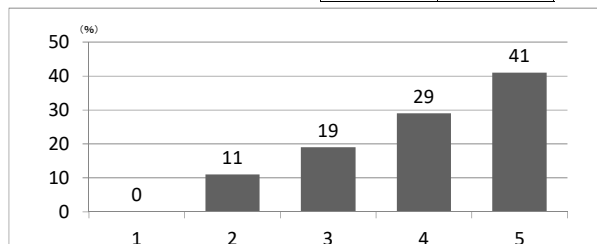


〈課題〉

- ・書いた文章を読み返し、段落相互の関係に注意して推敲することに課題がある。
- ・文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつことに課題がある。
- ・文脈の中における語句の意味を理解することに課題がある。

〔算数〕

標準偏差 3.2

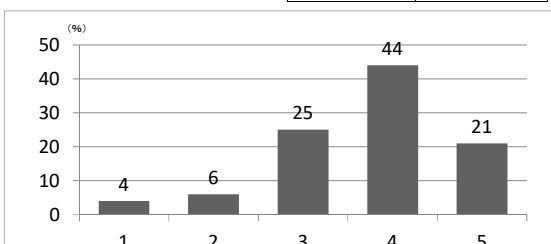


〈課題〉

- ・県平均と比べ2の児童が多く、2の段階の児童を3、4段階へと引き上げていく必要がある。
- ・速さ、時間、道のりの関係の理解に課題がある。
- ・式や言葉で求め方について記述することに課題がある。

〔数学〕

標準偏差 3.4



〈課題〉

- ・数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴や問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。
- ・データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。

【改善策】

昨年度まで、以下のことについて小中学校共に取り組んできた。(小学校、中学校取り組む内容は同じ)

- ・演習問題を行う計画表を作成し、計画的に問題に取り組むとともに、解説まで確実にを行い、管理職による見届けの実施
- ・くわがたドリル(錦江町が独自に作った計算ドリル)、「おさらい先生」「ラインズ」(タブレット端末でできる国語科、算数・数学科ドリル学習)の徹底
- ・振り返りの活動の重視(子供のメタ認知力、記述力の育成)
- ・協働的な学習による思考力の育成

これにより、今回の調査結果では、前回と比べ、全ての領域で正答率が高くなった。特に、記述式の問題の正答率が高くなり、振り返りを重視してきたことが効果的であったと考える。このことから昨年度行ったことは大きな成果を上げていると言える。しかし、算数、数学科での記述については、課題が残っている。また、複数の資料等を結び付けて関係性を捉えたり、自分の考えをもったりすることにも課題が残った。どの学校も学力向上について情報を共有し、同じベクトルで取組を行えたことが大きな成果である。課題については、更なる取組を行っていきたい。

このため、今後は、思考力、記述力の育成など、以下の事項に重点的に取り組んでいく。

(今後の具体的な取組)

- 課題を解決するために、「書く」活動を充実させていく。「自分の考え」や「振り返り」を100字程度で記述する活動を取り入れる。その際、使用する言葉、書く観点、書く様式、書く時間などの条件や制限を意図的に与え、自分が書きたいことを端的に記述する能力を養っていく。
- 下位層を中位層へ、中位層を上位層へ引き上げていくために、個に応じた学習活動を充実させ、一人一台端末も積極的に活用しつつ、「かごしま学力向上支援Webシステム」に掲載された問題に、週1回以上取り組ませるよう指導を徹底する。
- また、以下の事項を管理職研修会等で指導し、学校訪問の際に改善されているかどうか確認する。

〔小学校〕(国語科) 文章や写真、図表等を関連付けて読み、解釈できるように指導を行う。
(算数科) 読み取ったことを図表に表し考えたり、考えたことを条件に応じて記述して説明したりする活動の指導を行う。

〔中学校〕(国語科) 文学や説明文を読み、自分の考えをもつための授業改善の指導を行う。
(数学科) 言葉や数、式、表、グラフ等の相互の関連を考えさせ、数学的な表現を用いて説明する指導を行う。

【様式1】

児童数	51	小学校数	2
生徒数	44	中学校数	2
計	95	計	4

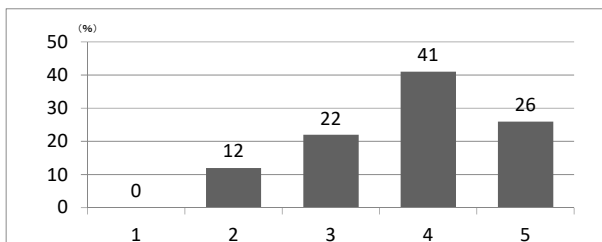
令和3年度全国学力・学習状況調査結果について

南大隅町教育委員会

(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

【小学校】〔国語〕

標準偏差 2.9

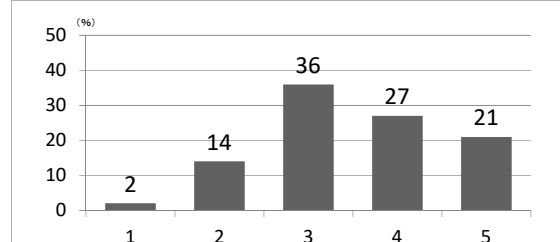


〈課題〉

- ・5段階は26%となっており、前回と比べて、+8Pとなった。また、1, 2段階は12%となっており、前回と比べて-7Pとなった。
- ・県と比較して、記述式の正答率が若干低く、日常的に自分の考え等を書く活動を意図的に取り組んでいく必要がある。
- ・「読むこと」の正答率が低い。文章の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握することに課題がある。

【中学校】〔国語〕

標準偏差 3.0

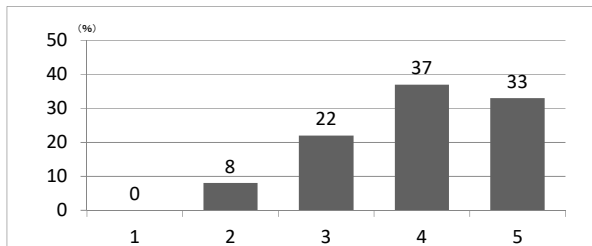


〈課題〉

- ・4, 5段階は48%となっており、前回と比べて、-11Pとなった。県平均と比べても、上位層が少なく、中位層が多い。
- ・記述式の正答率は全国や県と比較して高いが、言語に関して課題がある。
- ・「読むこと」の正答率が低い。登場人物の言動の意味を考えた内容を理解することに課題がある。

〔算数〕

標準偏差 3.1

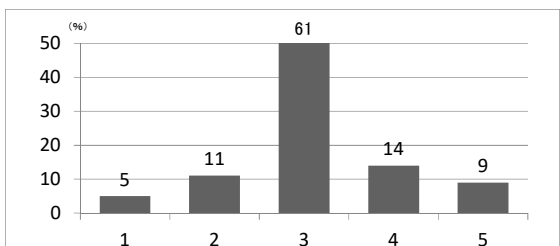


〈課題〉

- ・4, 5段階は70%となっており、前回と比べ+15Pとなった。また、1, 2段階は8%となっており、前回と比べて-15Pとなった。
- ・「データの活用」領域が県と比較して-4.5Pとなった。
- ・「除法の式と商の意味理解」や「複数データから特徴を読み取り記述する問題」に課題がある。

〔数学〕

標準偏差 3.1



〈課題〉

- ・4, 5段階が23%となっており、前回と比べ-16Pとなった。県平均と比べても、上位層が少なく、中位層が非常に多い。
- ・「図形」領域が県と比較して-3.9Pとなった。
- ・数学的に表現したり、数学的に表現された事柄を読み取ったりする問題については、正答率が低い。無解答率が高い。

【改善策】

- ①昨年度まで、演習問題の計画的・継続的な取組の充実を図ってきたが、鹿児島学習定着度調査では、基礎・基本の定着に大きな課題があることは明らかとなった。そのため、それ以降、基礎・基本の確実な定着についても取組を充実させてきた。また、演習問題についても、いかに授業と関連付けて取組を行うか指導してきた。
- ②これにより、今回の調査結果では、基礎・基本の定着が図られつつあり、特に県平均と大きく開きのあった学校においては、個別指導や学校全体としてのサポート体制、見届け等が徹底され、学力の大幅な伸びが見られた。しかし、依然として、町全体として記述式の問題や思考・判断・表現に係る問題については課題がある。このことから、基礎・基本の確実な定着に向けた取組は効果があったと考えられるが、思考力・判断力・表現力等の向上を目指した取組については不十分だったと考えられる。また、特に中学校においては、国語、数学のいずれにおいても、上位層が少なく、中位層が非常に多い結果となった。これは、日常の個別指導等が、下位層に偏り、上・中位層に対する手立てが十分でなかったと考えられる。
- ③このため、今後は、基礎・基本の確実な定着を図りつつ、授業改善に向けた以下の事項に重点的に取り組んでいく。
- (今後の具体的な取組)
- 各学校において、結果分析を入念に行い、それに基づいた計画的・継続的な取組を全校体制で実施するよう指導する。(各学校へ指導計画への明記。)
 - 授業と家庭学習の関連を図り、児童生徒の主体的な学びが展開されるよう、町内の好事例を共有し、各学校に生かせるようにする。
 - 研究授業や日々の管理職による授業参観の機会を生かした授業改善に向けた取組の充実を図る。(全国学力・学習状況調査問題、鹿児島学習定着度調査問題、Web問題等から、児童生徒に付けるべき力を問題レベルで確認し、それを授業に取り入れる。)(町内で実施される他校研究授業・授業研究への参加:町教委がとりまとめ、各校へ参加啓発。)
 - 上・中位層を伸ばす個に応じた学習活動を充実させるため、授業内での取組や家庭学習での取組の充実を図るよう、具体的な指導を行う。(1人1台端末(AIDリル)の効果的活用、Web問題の週1回以上取組。)
- 〔小学校〕〔国語科〕 目的に応じて文章を書いたり、目的を意識して要約したりする活動の指導を行う。
(算数科) 自分の考えや気づきを筋道を立てて話したり書いたりする活動を徹底させる。
- 〔中学校〕〔国語科〕 場面の展開、登場人物の言動等から内容を理解する指導を行う。
(数学科) グラフや図形等について判断の理由等を説明する指導を行う。

【様式1】

児童数	97	小学校数	6
生徒数	101	中学校数	5
計	198	計	11

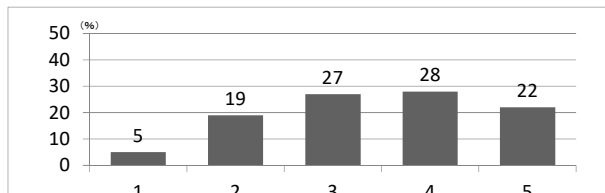
令和3年度全国学力・学習状況調査結果について

肝付町教育委員会

(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

【小学校】〔国語〕

標準偏差 3.5

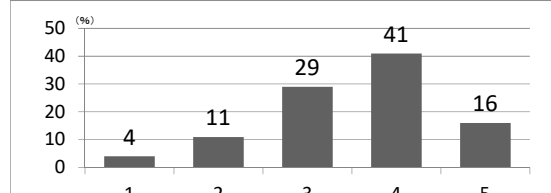


〈課題〉

・4, 5段階は50%となっており, 前回と比べて, 少なくなった。(前回は61%)また, 県平均と比べると, 下位層の3, 2, 1段階が多い。思考力・判断力・表現力に関する問題の正答率は, ほぼ県の正答率を下回っており, 活用する力が十分に定着していない。
・目的や意図に応じて資料を使って話すことや自分の主張が伝わるように文章全体の構成や展開を考えることに課題がある。

【中学校】〔国語〕

標準偏差 2.9

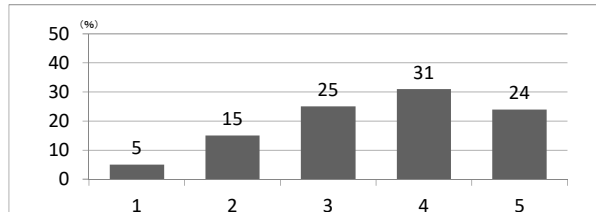


〈課題〉

・4, 5段階は57%となっており, 前回と比べて, 少し多くなった。(前回は55%)県平均と比べると, どの段階もほぼ同じ割合であるが5の段階の割合が県より少ない。記述式問題の無解答率が高く, 自分の考えを書く力の定着が課題である。
・文章を読み取り, 内容を理解すること及び読み取った内容をもとに自分の考えをもつことに課題がある。

【算数】

標準偏差 4.0

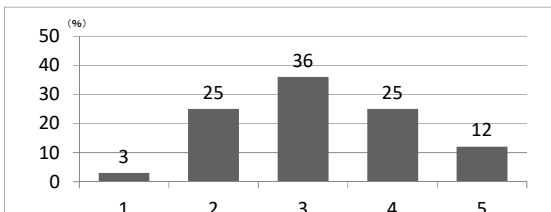


〈課題〉

・4, 5段階は55%となっており, 前回と比べて, 少し多くなった。(前回は53%)県平均と比べ2, 1の児童が多い。15問が県の正答率を下回っており, 知識・技能及び思考力・判断力・表現力ともに定着していない。
・時刻, 速さと道のりをもとにした時間, 三角形の面積などを求める知識及びデータの分類やデータを読み取る力に課題がある。

【数学】

標準偏差 3.6



〈課題〉

・4, 5段階は37%となっており, 前回と比べて, 多くなった。(前回は32%)前回は2段階の割合が最も多かったが, 今回は3段階の割合が多くなったものの, 2段階の割合が県より多い。
・事象を数学的に解釈し, 数学的に説明する力やグラフの特徴を読み取り数学的な表現で説明する力に課題があり, 無解答率も高い。

【改善策】

①昨年度まで, 各学校で作成した「PDCA-Rサイクル」表に基づいた具体策の推進

昨年度は, 学びの羅針盤・大隅学力向上リーフレットへの書き込みと校内研修等での積極的活用, 大隅教育事務所が作成しているグラフ作成ソフトを年3回活用し, 児童生徒の声を基にした授業改善, 分析結果と対応策の見える化と, そこに対応した学力向上Webシステム問題・過去問の活用推進, わかる・できるまでの反復指導実践のための時間確保などの取組を行ってきた。(D:実施してきたこと)

②しかし, 今回の調査結果では, 前回と比べ, 中学校国語と数学に関しては全体的に改善されたものの, 小学校国語と算数に関しては, 前回以上に定着の不足が見られた。具体的には, 算数の値を求めるための知識及び小学校と中学校の両方とも資料やデータを読み取り, 内容を解釈し自分の考えを記述する面が課題としてあげられる。このことから, 昨年度までの取組については, 小学校での知識技能の習得と小中学校での思考力・判断力・表現力の育成及び活用する力の育成の面では取組が不十分だったと考えられる。(C:実施してきた内容の検証)

③このため, 今後は, 知識・技能の確実な習得及び思考力・判断力・表現力の育成について, 以下の事項に重点的に取り組んでいく(P: 今後の方針)

(今後の具体的な取組)

○ 継続して成果が出ていない学校について, 大隅教育事務所と連携しながら, 諸調査等の結果分析をもとにした授業改善案を作成させ, 授業改善を推進する指導を行う。また, 継続的に学校訪問を行い, 改善がなされるまで指導を徹底する。

○ 思考力・判断力・表現力を育成するため, 単位授業の展開の場面での資料やデータを読み取り, 内容を解釈し自分の考えを書く活動の位置づけ及び終末の場面での小テスト等の実施による理解度の把握を行う。理解度の把握については, 「かごしま学力向上支援Webシステム」に掲載された問題を積極的に活用するよう指導を徹底する。

○ また, 以下の事項を管理職研修会や教務主任研修会等で指導し, 学校訪問の際に改善されているかどうか確認する。

〔小学校〕(国語科) 資料を読み自分の考えを記述し意見交換する活動を数多く設定するよう指導を行う。

(算数科) 数値の求め方の確実な習得と資料からデータを読み取る活動の実施と確実な解説を行うよう指導する。

〔中学校〕(国語科) 資料の内容を解釈し, 自分の考えを記述し意見交換をする活動を数多く設定するよう指導を行う。

(数学科) 言葉や数, 式等を用いて, 数学的に表現し説明する活動の実施と確実な解説を行うよう指導する。

【様式1】

児童数	126	小学校数	10
生徒数	120	中学校数	1
計	246	計	11

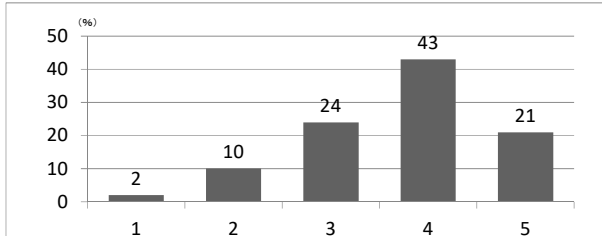
令和3年度全国学力・学習状況調査結果について

西之表市教育委員会

(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

【小学校】〔国語〕

標準偏差 3

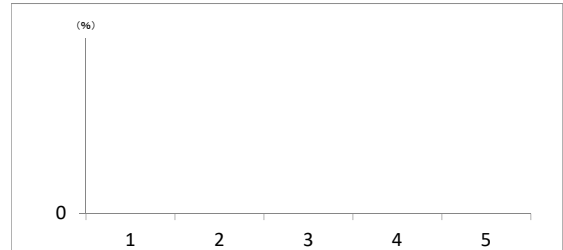


〈課題〉

・5段階が県平均27%に対して、本市では21%であることから、上位層をどのように伸ばしていくかが課題である。
 ・目的を意識して中心となる語や文を見付けて、要約することに課題がある。また、目的に応じ、文章と図表を結び付けて必要な情報を見付けることにも課題がある。

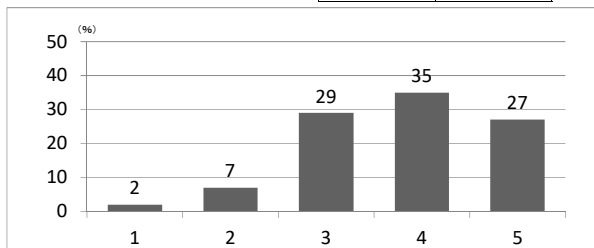
【中学校】〔国語〕

標準偏差



【算数】

標準偏差 3.3

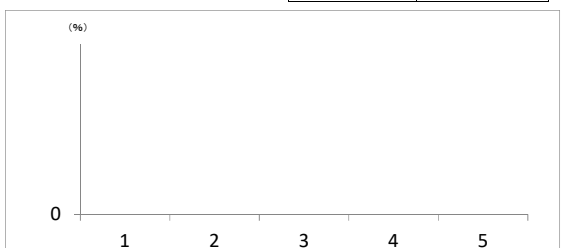


〈課題〉

・5段階が県平均32%に対して、本市では27%、3段階が県平均25%に対して、本市では29%であり、中位層、上位層をどのように伸ばしていくかが課題である。
 ・問題文を解釈すること、理由を記述することに課題がある。文章回答の問いについては、県平均と比べて無解答率が高い。

【数学】

標準偏差



【改善策】

- ①昨年度まで、根拠を明確にして自分の考えを述べる活動や漢字や計算など基礎・基本の定着を図る活動に取り組んできた。
- ②これにより、今回の調査結果では、前回と比べ、下位層が中位層に引き上げられてきたが、一方で、中位層から上位層への伸びがみられなかった。また、小・中学校に共通して、問題文を解釈すること、根拠を明確にした自分の考えを記述(表現)することに課題がみられた。文章解答の問いについては、無解答率が高いことも課題の一つである。
- ③そのため、今後は、個に応じた指導の充実を図り、明確な根拠を基に自分の考えを記述する活動を積極的に取り入れていく。

(今後の具体的な取組)

- 探究型授業における「見通す」段階で、明確な根拠を捉え、自分の考えを記述する活動を重点的に取り入れるよう指導する。また、問題意識を高めるための「つかむ」段階の活動や学習問題の工夫についても併せて指導する。
 - 中位層や上位層を伸ばす個に応じた学習活動を充実させるため、一人一台端末も積極的に活用したり、全国学調の問題や「かごしま学力向上支援Webシステム」に掲載された問題等に、積極的に取り組んだりするよう指導する。(学習課題や発展問題、自宅学習の課題としての活用)
 - また、以下の事項を管理職研修会や校内研修等で指導し、各学校で取り組ませる。
- 〔小学校〕〔国語科〕言葉に着目し、目的や意図に応じた記述ができるよう指導する。
 (算数科) 目的に応じて図や式など数学的な表現を用いて記述ができるよう指導する。

児童数	70	小学校数	7
生徒数	42	中学校数	1
計	112	計	8

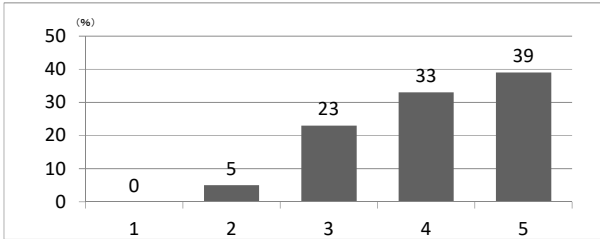
令和3年度全国学力・学習状況調査結果について

中種子町教育委員会

(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

【小学校】〔国語〕

標準偏差 2.6

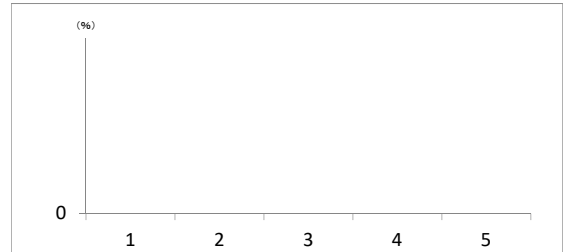


〈課題〉

・4, 5段階は72%となっており, 前回と比べて+13Pとなった。平均正答率は県平均と比べると+5Pであり, 前回と比較して1, 2段階が大幅に減っていることから, 全体的には向上していると言える。しかし, 活用する力が十分に定着しているとは言えない。
 ・目的に応じ, 文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付けたり, 中心となる語や文を見付けて要約したりする力に課題がある。

【中学校】〔国語〕

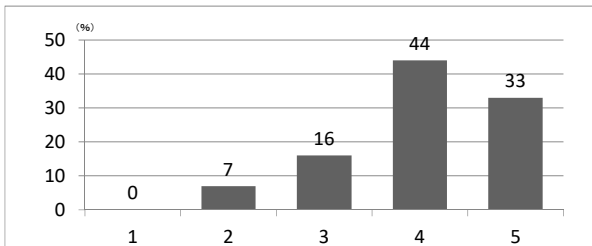
標準偏差



〈課題〉

【算数】

標準偏差 3.1

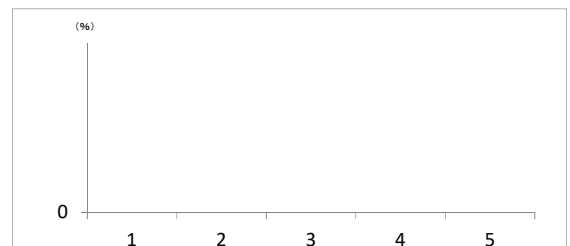


〈課題〉

・4, 5段階が77%となっており, 前回と比べて+20Pとなった。平均正答率は県平均と比べると+4Pであり, 前回と比べて下位層が大幅に減少していることから, 学力は全体的には向上していると言える。
 ・単位量当たりの大きさやグラフに示された特徴の読み取りに課題が見られる。また, 自分の考えを記述する問題に課題が見られる。

【数学】

標準偏差



〈課題〉

【改善策】

- ①昨年度まで, 各校でWeb問題(演習問題)の取組計画を立て, 計画的に取り組むとともに, 実施後の丁寧な解説指導を徹底して行ってきた。また, 課題の見られる内容について年間指導計画に朱書きしたり, 問題を縮小コピーして教科書に貼ったりして, 授業で徹底して課題克服を図ってきた。
- ②これにより, 今回の調査結果では, 前回と比べ, 下位層の引き上げがなされ, 全体的な学力は向上が見られたが, 新たに, 上位層の減少が課題としてあげられる。このことから, 昨年度までの取組は, 一定の効果があったと考えられるが, 中位層の学力の底上げが必要である。ただし, 前回同様, 学校間の格差が見られることから, 各学校の取組状況や取組内容の確認が必要である。
- ③このため, 今後は, 以下の事項に重点的に取り組んでいく。

(今後の具体的な取組)

- 昨年度までの取組を継続するとともに, 演習問題への計画的な取組について管理職に確認させ, 毎月, 取組状況を報告させる。
- 諸調査の結果分析, 課題解決のための具体策等について, 管理職研修会で確認するとともに, 進捗状況についても管理職研修会で確認し, 適時指導する。
- 定期的に学校を訪問し, 授業改善の具体策等の取組状況や演習問題の取組計画の進捗状況等を確認し, 取組への指導を徹底する。
- 中位層や上位層を伸ばす個に応じた学習活動を充実させるため, 1人1台端末の持ち帰りを積極的に実施するよう指導を徹底する。
- また, 以下の事項を管理職研修会や教務主任研修会等で指導し, 学校訪問の際に改善されているかどうか確認する。

〔小学校〕(国語科) 要約等の書く力を高める授業改善について, 適切かつ効果的に助言する指導を行う。

(算数科) 自力解決し, 自分の考えをまとめる過程の改善について, 適切かつ効果的に助言する指導を行う。

【様式1】

児童数	41	小学校数	8
生徒数	32	中学校数	1
計	73	計	9

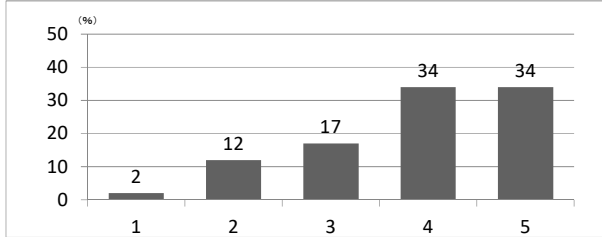
令和3年度全国学力・学習状況調査結果について

南種子町教育委員会

(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

【小学校】〔国語〕

標準偏差 3.2

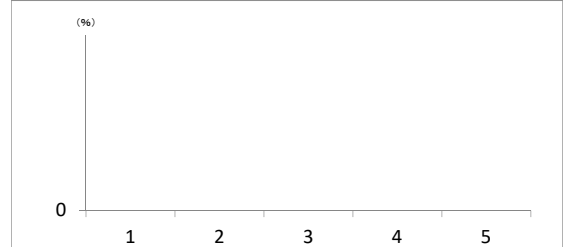


〈課題〉

- ・4, 5段階は68%となっており, 概ね学習内容を理解できている児童が多い反面, 1, 2段階も14%いる。
- ・領域別では, 「書くこと」が県平均を下回っている。
- ・自分の主張が明確に伝わるように, 文章全体の構成や展開を考えたり, 主語と述語の関係を捉えたりすることに課題がある。

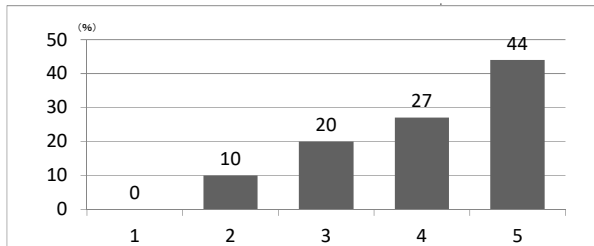
【中学校】〔国語〕

標準偏差



【算数】

標準偏差 3.1

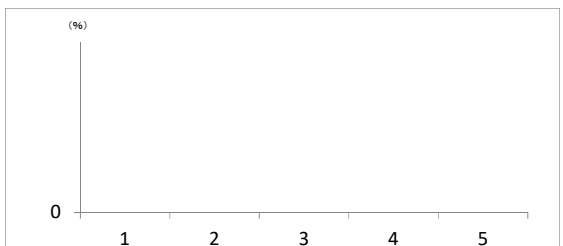


〈課題〉

- ・4, 5段階は71%となっており, 前回と比べ上位層が増える結果となった。県平均と比べ, 下位層がやや多い傾向が見られる。
- ・複数のデータを比較し, 示された特徴をもった項目とその割合を記述する問題について課題が見られた。

【数学】

標準偏差



【改善策】

- ①昨年度まで, 小規模校において, 個人カルテを作成させ, 個に応じた指導を充実させる取組を行ってきた。また, 各学校の「こだわりの視点」を設定させ, 教師が教科や単元の本質を深く理解した上で授業を行う授業改善に力を入れて取り組んできた。
- ②これにより, 今回の調査結果では, 前回と比べ, 上位層の割合が増えるなど, 中位層, 上位層の学力向上は改善されたが, 依然として下位層の児童生徒の改善面が課題として挙げられる。このことから, 昨年度までの取組については, 上位層の伸びでは効果があったと考えられるが, 下位層の学力向上対策では取組が不十分だったと考えられる。また, 学校間の差が大きくなっていることから, 取組を徹底した学校とそうでない学校との間で, 成果に差が現れてきているものと考えられる。
- ③このため, 今後は, 探究型の授業改善を更に推進し, さらに個人カルテの内容を充実させ, 個別最適化された学びを推進するなど, 以下の事項に重点的に取り組んでいく。

(今後の具体的な取組)

- 下位層の学力向上が図られていない学校に対して, 個人カルテの内容を確認し, 諸調査等の結果分析, 授業改善に関する指導を行う。また, 指導した内容の改善が図られたかどうかを確認するため継続的に学校訪問を行い, 改善がなされるまで指導を徹底する。
 - 中位層や上位層を伸ばす個に応じた学習活動を充実させるため, 一人一台端末の「ドリルパーク」等を積極的に活用させる。また, 「かごしま学力向上支援Webシステム」に掲載された問題等に, 計画的に取り組ませよう指導を徹底する。
 - 教科の本質に目を向けた授業研究を行わせるよう, 校内研修等で指導を行い, 探究型の授業に取り組ませる。管理職が定期的に授業参観し, 各担任へフィードバックするように指導する。
 - また, 以下の事項を管理職研修会や教務主任研修会等で指導し, 学校訪問の際に改善されているかどうか確認する。
- 〔小学校〕(国語科) 自分の主張が明確に伝わるように, 文章全体の構成や展開を考えて「書く」学習に取り組む。
 (算数科) 複数のデータを比較して, その特徴を説明したり, 計算等の意味理解を重視した授業改善を行う。

【様式1】

児童数	92	小学校数	9
生徒数	89	中学校数	4
計	181	計	13

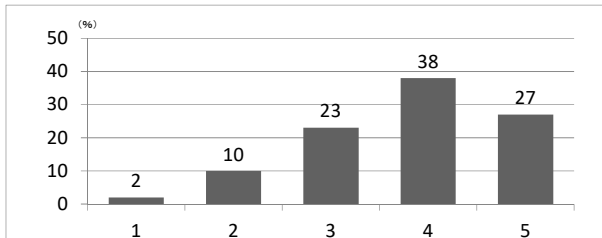
令和3年度全国学力・学習状況調査結果について

屋久島教育委員会

(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

【小学校】〔国語〕

標準偏差 2.9

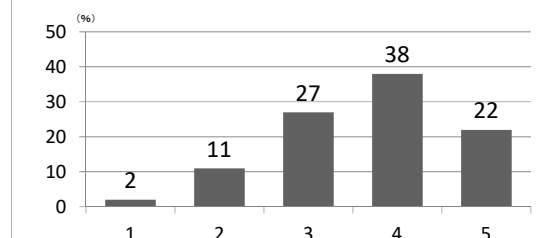


〈課題〉

・4, 5段階は65%となっており, 上位層にいる割合が高い。また, 県平均, 全国平均と比べると, 共に上回っている。
 ・知識・技能では, 修飾・被修飾の関係把握問題の正答率が低い。
 ・思考・判断・表現では, ほぼ全てで向上しているが, 目的や意図に応じて, 自分の考えを伝えるための書くことにおいて, 課題がある。

【中学校】〔国語〕

標準偏差 2.6

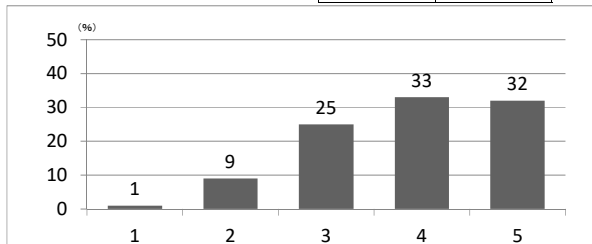


〈課題〉

・4, 5段階は60%となっており, 正答率は, 県平均, 全国平均共に上回っている。また, 下位層の生徒の数も減少している。
 ・各領域に全てにおいても, 県平均, 全国平均を共に上回っているが, 敬語の使い方や読んだことを基に, 自分の考えを記述する問題において, 正答率が低い。

〔算数〕

標準偏差 3.2

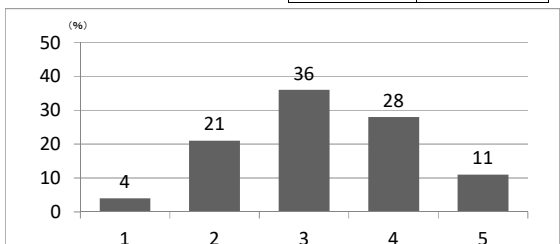


〈課題〉

・4, 5段階は65%となっており, 上位層にいる割合が高い。また, 県平均, 全国平均と比べると, 共に上回っている。
 ・思考・判断・表現では, ほぼ全ての問題で, 県平均, 全国平均を上回っているが, 面積を求める解き方やその方法を説明する問題において, 正答率が50%となった。

〔数学〕

標準偏差 3.3



〈課題〉

・4, 5段階は39%となっている。上位層の生徒に比べ, 中位層の生徒が多いが, 県平均, 全国平均と比べると, 正答率は共に上回っている。
 ・データの傾向を的確に捉え, その理由を説明する問題において, 正答率が著しく低い。

【改善策】

- ①昨年度まで, 指導力を高め, その結果を子供の姿で示すことをテーマとして町内で共有し, 無解答率を下げることやPDCAサイクルに加え, 新たにOODAループなどの手法を取り入れ, 同時進行で改善できる年間の指導計画を取り入れてきた。(D:実施してきたこと)
 - ②これにより, 今回の調査結果では, 前回と比べ, 小学校, 中学校共に実施された教科全てにおいて県平均, 全国平均を上回り, 改善することができた。知識・技能において, 正答率が低い部分については, 結果を基に, 子供たちの再度定着を図る必要がある。思考・判断・表現においては, 大きな改善が見られている。授業づくり, 指導向上に向けた取組が成果として現れてきたと言える。しかし, これまで同様, 取組を継続しながらも, 学校においては, 取組の成果が現れてきていない学校もある。(C:実施してきた内容の検証)
 - ③このため, 今後は, これまでの取組を継続しつつ, 学校内での職員の意識づくりを通して, 取組への真摯な取組が子供の姿で具現化されるよう, 以下の事項に重点的に取り組んでいく。(P:今後の方針)
- (今後の具体的な取組)
- 管理職研修会における年間の学力向上に向けた計画作成(PDCA)と取組の充実について, 常時評価するためのOODAループの手法をこれまで同様, 継続して, 各学校へ学力向上の好循環が起きるように進める。また, 校内研修や学力向上プログラムを活用した授業改善, 指導力向上を, 町全体で進める。
 - 中位層や上位層を伸ばす個に応じた学習活動を充実させるため, 1人1台端末も積極的に活用しつつ, 「かごしま学力向上支援Webシステム」に掲載された問題に, 週1回以上取り組ませるよう指導を徹底する。
 - また, 以下の事項を管理職研修会や教務主任研修会等で指導し, 学校訪問の際に改善されているかどうか確認する。
- 〔小学校〕(国語科) 知識・技能では, 修飾・被修飾の関係を捉える問題の正答率が低いことを知らせ, 焦点化して改善にあたる。
 思考・判断・表現では, 目的や意図に応じて, 自分の考えを伝える書くことにおいて, 改善を図る。
 (算数科) 面積を求める解き方やその方法を説明する問題において, 改善を図る。
- 〔中学校〕(国語科) 基礎・基本の定着を図りつつ, 目的に応じて, 適切な情報を取り上げる工夫した書き方の指導の具体的な方法についてを行う。
 (数学科) データの傾向を的確に捉え, その理由を説明する問題において, 改善を図る。